

肥育牛経営管理支援システムの開発

遠 藤 宏 幸

(山形県立農業試験場)

Development of the Management Supporting System for Beef Cattle Husbandry

Hiroyuki ENDO

(Yamagata Prefectural Agricultural Experiment Station)

1 はじめに

山形県における畜産農家戸数は減少を続けているが、一戸当たりの飼養頭数は増加傾向にあり、飼養規模の拡大が進んでいる。したがって、畜産経営における販売金額及び経営費はますます増大している。特に肉用牛肥育は、1頭当たりの金額の動きが大きいので、各個体の管理が収支に大きく影響し重要となる。そのために大規模経営において効率的な計数把握を行い経営管理の支援、経営方針の決定に役立てるシステムの開発が必要となった。

そこでパソコンを利用し1頭ごとの肥育・販売データを蓄積することによって、肥育状況の分析、収支予想等を行うシステムを開発した。

2 システム開発環境

(1) 開発機種：富士通 FMV-5166T5

1) CPU：Pentium166MHz

2) メモリ：32MB

3) ハードディスク：2.1GB

(2) ソフトウェア：OS Windows95

1) Microsoft Access 97

3 システムの構造

本システムはMicrosoft Access 97のファイルとして構成されている。メニューの項目及び階層図については図

1のとおりであり、データベースを構築する「データベース管理」と蓄積されたデータを集計、分析する「データベース集計」部分からなる。

システムの内部構成はデータを蓄積するテーブル、データの集計・処理のクエリー、入出力画面であるフォームに大別されるが、データ処理のフローは図2に示される。利用者が入力するテーブル「個体データ」が基本データとなり、各集計、分析処理がなされる。

データベースの項目は表1のとおりであるが、このうち集計分析に利用する項目は、次のとおりである。①区分、②父名・祖父名・曾祖父名、③導入時年月日、④導入時体重、⑤導入価格、⑥導入先、⑦販売時年月日、⑧販売時生体重（又は、枝肉重）、⑨販売価格、⑩事故。

また、このデータは各種フォーマットでの出力が可能であり、必要に応じ表計算ソフト等での分析に用いることができる。

4 システムの特徴

(1) システムの機能

システムの主な機能は次のとおりである。

1) 肥育牛個体データベースを構築する。

2) データベースからの販売単価情報を時系列で表示する。

3) 年次ごとの販売収入と導入金額、飼養頭数の変化を表とグラフで表示する。

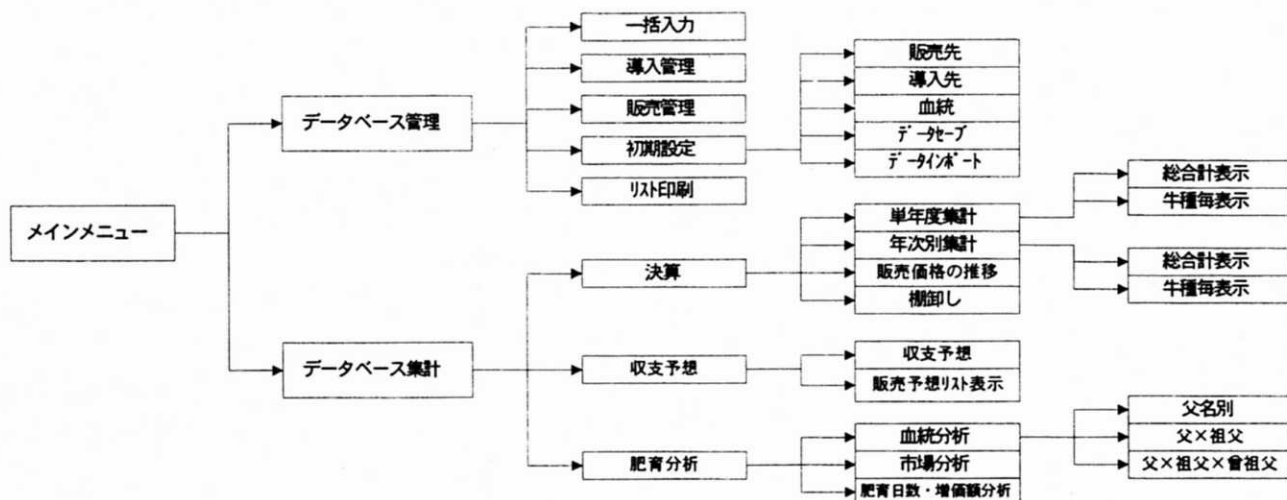


図1 システムのメニュー構成

表1 データベース項目